

少尉候補生實務練習ノ為練
習艦隊(松島嚴島槁立)編制遠
洋航海件附報告書(其一)

0597

海經樓卷第三十七之三
十五年丙辰第百三十四之三
連三十五年公文檢要卷五
七十七之三

0598

元 巻 94

軍令部長  次長 

第一局  第二局 

副官 



副官 

参事官


發付 十月廿日

三十五年十月九日起案

大臣 榎

總務長官 

軍務局長 

第一課長 

第二課長 

課員 



人事局長 

第一課長 

教育本部長 

第一部長 

副官 

部員 

軍艦松島嚴島及橋立ヲ本軍採用スルニ海軍少

訓令四案

第三十七号

海軍

0599

本月下の三つ
傳達したる

色紙發布ノ時日

海軍少

員

員

教
月
日



0599

本月下旬三把初編の
傳達以佐務局ノ凡ハ

此年發布ノ時日ハ常局ヨリ通報

0600

尉候補生練習ノ用ニ供スルノ件ニ別ニ訓令ニ及ヒタリ
 此等若シ國ニ尚ホ茲ニ注シテ而カモ前例ニ比シ其隻數ヲ
 増シ練習艦ニ充ツルヲ得ルニ至リシ我海軍ノ發達ニ隨伴
 教育機関ノ擴張ノ必要ニ足ルモノ實
 在勢力ノ増進ニ在リト雖モ之ト同時ニ
 教育ニ對シテ吾人ノ責任亦重且ツ大ヲ加ハタリ
 言フ後并ニ所ナラシメ
 一層一層奮勵シテ以テ其實ヲ示クニテ努メサルヘカラス
 依テ貴官ハ右三艦ニ對シテ自カラ他ノ麾下軍艦ニ對
 スルト其趣ヲ異ニスル儀ニ付持テ之ヲ一々艦隊トシ當該
 指揮官タル司令官ラレテ須ラク批事ヲ主者ヲ本ニ教育本
 部ニ彙報スル儀ニ專ラカク教育ニ致サシメ其目的ヲ遂行
 スルニ於テ遺憾無カラシムル採取ナラシム

三十五年十月廿一日

大臣

0601 0602

討候補生練習ノ用供スルノ件ニ別ニ訓令ニ及ヒスル旨
意ヲ要スルモノアリ 恩フニ此種ノ軍艦ヲ而カモ 前例ニ比シ其隻數ヲ

増シ練習艦ニ充ツルヲ得ルニ至リシニ我海軍ノ發達ニ隨伴
スルニ教育機関ノ擴張ノ必要之ヲ促シ海軍實

在勢力ノ増シタルニ由ルモノガリト雖モ之ノ同時ニ

教育ニ對シ吾人ノ責任亦可ニ重ク深ク之ヲ銘記
シ層一層奮勵シテ其實ヲ舉ゲルハカラス

依テ貴官ニ右三艦ニ對シテ自カラ他ノ艦下軍艦ニ對
スルト其趣ヲ異ニスル儀ニ付之ヲ分艦隊トシ當該

指揮官タル司令官ラシテ須ク此ノ主者ヲ本レ教育本
部ニ委嘱シ該艦ニ專ラカク教育ニ致サシメ其目的ヲ遂行

スルニ於テ遺憾無カラシムル様取中フヘシ

三十五年十月廿一日

大臣

0601 0602

海軍											0603	<p>艦隊司令部</p> <p>前</p> <p>元 隊 匠</p>
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------	------------------------------------

04

三

艦隊司令長官
予高談三艦に於て練習する少尉候補生カ他日艦
名艦に即乗せらるべし素養に於て艦隊の規
教授指導せらるべし

海軍

0604

十月廿七日(日)午後三時共思見後

三艇共汽力及大砲公試終了結果良好

杉島

(十月廿七日電報) 土日大砲公試終了結果良好。

(九月廿七日電報) 汽力再公試終了結果良好。

巖見

(十月廿七日電報) 汽力大砲公試終了結果良好。

橋立

(十月廿七日電報) 公試運轉終了結果良好。

(九月廿七日電報) 土日大砲公試終了結果良好。
(十月廿七日電報) 三艇公試終了結果良好。

0605

軍令部

次長

濟

第一局

第二局

源

前官

高

栗

副官

參事官

發付

十月廿

三十五年十月十六日起案

大臣

總務長官

人事局長

軍務局長

經理局長

艦政本部長

教育本部長

第一課長

第二課長

第一部長

第二課長

第一課長

第二部長

第一部長

副官

部員

本年採用海軍少尉候補生練習為軍艦

訓令案

海軍令第三三三號

海軍

0606

三瓶、中、訓令案

五

三

東

三

0606

6

三

三瓶、中之一司會官、旗經トスハキ旨、
訓令有布塔、本島有布、

0607

松島嚴島橋立ノ外國航海明治三十六年二月横須
 賀港ヲ出發シ同年七月同港ニ歸着ス年見込ヲ以テ當
 該司令官ヲシテ大要左記ノ標準依リ航路豫定表ヲ
 作ラシメ本大臣ノ認許ヲ受ルル採取中ナリ
 三十五年十月廿二日
 大正
 艦隊司令官長官

全航程 一萬四千四百十八哩
 全航海日時數 六十八日十六時間
 碇泊全日數 七十日
 在外國航日數 百三十三日

0608

教育本部



海軍局第一課長

第二課長

課員



海

十月九日發行

九三三



0609

軍艦松島嚴島橋立、外國航母ニ関シ大任アリ
貴司公長及死訓令ノ以第ニ有之其延誤訓令
書中全航程等運轉等ハ本荷ニ於テ豫算編制
為作製、別紙航路豫定表ニ依ラレ各ルニ有
之其條均多考相成否此段申進也

明治三十五年十月廿九日

軍務局第一課長

艦隊參謀長

練習船松島橋立厳島航路豫定表

地名 航程 航日 時數 碇泊日數 發月日 着月日

横須賀	一八二哩	一	二時	八	二月二十日	三月三日
馬尼刺	一三二〇	七	二	六	三月十日	三月十九日
新嘉坡	一四八〇	八	九	七	三月十五日	三月十九日
錫蘭島 トリシユユリ	三〇〇	二	二	五	四月十日	四月十三日
古倫母	一六二〇	九	五	五	四月十八日	四月二十三日
新嘉坡	一四七〇	八	八	七	五月三日	五月二十日
香港	八四〇	五	〇	六	五月十九日	五月二十二日
吳淞	五一〇	三	一	六	五月三十日	五月三十一日
仁川	四一〇	二	九	六	六月八日	六月二日
釜山	三一〇	一	三	五	六月十五日	六月十日
元山	三二〇	一	三	七	六月廿日	六月廿日

元山

浦塩新徳

延館

横須賀

計

三二五

四六〇

五四〇

一一四一八回

一三三

二一八

三七七

六八日 一六時

三 六月廿九日

五 七月七日

七〇日

六月廿六日

七月二日

七月十日

備考

〇印ハ出入共水先案内ヲ要ス
速力一時間七哩ヲ以テ算ス

0611

紙



第一編

軍務

報

電

0612

局	着	局	第一編	軍務	報	電	0612	名	氏	所	居	人	信	受
取受所	備本	備本	時	日	局	報	電	カ	イ	ノ	タ	イ	モ	モ
	時	時	分	分	分	分	分							

定指

本紙は只今重版中
 有月以上
 持寄居候保及友
 御事
 本紙は只今重版中
 有月以上
 持寄居候保及友
 御事

注意

名氏所居人信發

他人宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ
 符箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻ス
 ベシ決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカ
 十

十月十日
 明治

總務局

軍務局

人事局

教育本部

軍令部

練枝紙第一号
別紙練習枝隊豫定行動表御参
考迄及御送附候也

明治三十五年十一月十二日

第一課

第二課

田所常備艦隊参謀

藤原務局第一課長殿

海軍

明治三十五年十一月十二日

0613

練習枝隊豫定行動表

(自三十五年十一月十二日
至十一月十五日)

事

月 日 西地差着突

自十一月十二日
至十一月十四日

吳

吳波三回航

航海諸準備
吳波着之上諸操練

諸操練

陛下御還幸ヲ奉迎送ス

午前八時吳波着突原速力九節當夜三原着クハ
百貴島附近ニ夜泊ス

午前六時三原泊地奈原速力八節山豆島ニ
並ニ浪ヨリ解列シヨリ館山ニ至ルノ旨ニ奉報ス

第七節公第九節及第十節連日並ニ岩濱費試驗ヲ行フ
当日午後一時迄館山ニ集會シ次ニ館山奈原
須賀ニ回航

石炭搭載其他航海諸準備

午後四時橫須賀着

十一月十三日
十一月十四日
十一月十五日
十一月十六日
十一月十七日
十一月十八日
十一月十九日
十一月二十日
十一月廿一日
十一月廿二日
十一月廿三日
十一月廿四日
十一月廿五日

清水着

橫須賀着

橫須賀着

橫須賀着

航海

吳波着

吳波

吳波

吳波三回航

吳

西地差着突

自三月一日
 廿三日
 廿四日
 廿五日
 廿六日
 廿七日
 廿八日
 廿九日
 三十日

清水

清水祭

既海

吳着

吳

吳ヨリ
 江田島面航

江田島

備考

陛下御還幸ノ御日取土月十六日トナリタルハ

同日ハ諸操練ヲ取止メ以下順次一日迄練

上々而シテ清水碇泊日数ヲ一日ヌクヌ

諸操練並、諸射撃

正午清水祭

既海ヲ過キ既海航路ヲ操

石炭橋載其他航海諸準備

候補生乘艇并諸準備

供
醫

軍
務
部

軍
令
部



海
軍

陸軍
十一月廿九日
陸軍部

本月九日付陸軍部第一号ノ九ノ字ニテ陸軍部
ヨリ勅令及テ送付ノ事ニ付テハ
其ノ更ニ其ノ旨ニ及テ通知セラル

昭和二十五年十一月廿九日

第一課

陸軍部

第二課

陸軍部
陸軍部

陸軍部
陸軍部

0616

練習技隊豫定行動表中土月廿二日以後、関スル分左ノ如ク

月 日

所 在 地

記 事

自十月廿二日
至全 廿九日

横須賀

石炭搭載其他航海諸準備

全 卅日

横須賀

午前十時発 原速力九節 航角貳拾度
微速力四節

十一月一日

祝 海

午前五時頃小豆島通過午後六時政波着

全 二日

政波着

自全 三日
至全 六日

政波泊

諸操練銃砲射撃水雷発射

全 七日

政波泊
呉 泊

石炭搭載其他航海諸準備

自全 八日
至全 十日

呉 泊

全 十一日

呉 泊
江島面航

自全 十二日
至全 十三日

江島面航
江田島

候補生乗艇之付諸準備

供覽

教育本部

軍令部

第 第



書枝時...
上...
百...

上...
...

大臣...
...

海
軍
二
月
日

0618

練習枝隊隊定行動表之三 (三月十四日)

三月十四日	河在地着祭	本所・寅之記事	三月十四日
全十五日	吳	本所・寅之記事	陸友進式見学
全十六日	吳	航海諸準備	陸上見学
全十七日	航	午前八時吳祭 上園附近夜泊	陸上見学
全十八日	竹敷着	午後時津島・美通過	陸上見学
全十九日	竹敷		陸上見学
全二十日	敷祭佐保着	午前時竹敷祭	陸上見学
自全廿一日	佐世保	航海諸準備	陸上見学
全廿二日	佐世保	午前時佐保祭	陸上見学
自全廿三日	鹿兒島着		陸上見学
全廿四日	鹿兒島着		陸上見学
自全廿五日	鹿兒島着		陸上見学
自全廿六日	鹿兒島着		陸上見学
自全廿七日	鹿兒島着		陸上見学
全廿八日	鹿兒島着	午前六時祭	陸上見学
全廿九日	倉橋着		陸上見学
全三十日	甲島附近		陸上見学
全卅一日	嚴島着		陸上見学
自卅一日	嚴島	休業	陸上見学
自卅二日	甲島附近		陸上見学
自卅三日	甲島附近		陸上見学
自卅四日	甲島附近	夜粟島附近夜泊	陸上見学
全五日	甲島附近	午前六時及泊地祭	陸上見学
全六日	神戶着		陸上見学
全七日	神戶	湊川神社参拝	陸上見学
全八日	神戶	午前神戶祭	陸上見学
自全九日	大阪		陸上見学
自全十日	大阪		陸上見学
全十一日	大阪	午前八時大阪祭	陸上見学
全十二日	津着		陸上見学
全十三日	津	本所宮参拝	陸上見学
全十四日	津	午前時津祭	陸上見学
全十五日	横濱着		陸上見学

本行勅申 於テ候補生、射鼓手及祭射者、百威完
結下、果執行地所、及方者、各派長、一併

秘

當院に在りて
秘藏の書あり
其の書あり
及は

二十二年十一月廿日

上野書院に在りて

中野書院に在りて

海軍

0620



全三十日 甲島附近

全廿一日 嚴島着

自一月一日 嚴島

休業

射擊、祭射

自全二月 甲島附近

射擊、祭射

全五日 甲島附近祭

夜栗島附近夜泊

全六日 神戸着

午前六時夜泊地祭

全七日 神戸

湊川神社参拜

全上

自全八月 神戸祭大阪着

正午神戸祭

至全十日 大阪

砲兵工廠見學
大坂城見學

全十一日 大阪祭

午前八時大阪祭

全十二日 津着

全十三日 津

大神宮参拜

全上

全十四日 津祭

新時津祭

全十五日 横須賀着

本行動中、於三候補生、射擊及祭射、寺首威光、
結不、其、執、行、場、所、及、方、信、等、各、能、長、上、百、日、久

供覽

軍務局

教育本部

練武部第一四四號



練習少尉候補生、指導規程

練習少尉候補生第一期練習中内規

練習少尉候補生配置表

練習少尉候補生日課表標準

第二編 右報告付候也

明治三十五年十二月十三日

常備艦隊司令官上村彦之

海軍大臣男爵山本権兵衛殿



三十九日

0623

練習少尉候補生ノ指導規程

一 将校及機関官ハ凡テ指導官タラシムベシ

二 副長ニ監督トナリ少尉候補生全般ニ関スルヲ指揮監

督ス

三 少佐大尉内一名ヲ以テ副監督トシ中少尉ノ内一名ヲ以テ監督

補助トシ監督ノ事務ヲ補助セシム

四 副監督ハ監督ノ令下ニ少尉候補生ヲ監督シ且ツ監督

ヲ補助し専ラ少尉候補生ノ規律人事及庶務ニ

関スルヲ掌ル

五 副監督ニ般操練中ト号シ少尉候補生ノ監督指導

ニ注意し要スルハ分担ノ般務ハ自己監督下ニ其従属

将校ニ委ヌルヲ得

六 副長^{能長指揮下}指導官ノ長トナリ各指導官統裁ス

七 全科目、指導官に關しては全科指導官ノ先任者之ヲ区処ス
 八 指導官ノ分担左ノ如シ

教授スヘキ科目	職	務	名
砲術	砲術長及	中少尉	
水雷術	水雷長及	中少尉	
運用術	分隊長及	中少尉	
航海術	航海長及	中少尉	
機關術	機關官	全	員

部署其他諸般事項に關してハ航長便宜指導官ヲ指
 名ス

九 軍醫官ヨリテ海軍衛生ノ大要主計長ヲシテ海軍
 經理ノ大要ヲ教示セシム

0625

練習少尉候補生等一期練習中内規

第一条 少尉候補生は其實務練習規則に従ひ兵學校

於て習得せしむる兵學子ヲ實地ニ就キ訓練ヲ受ケ且軍

船ニ於テ將校ノ勤務練習得スベキ者ナレバ各自以

前ヨリ體シ熱心ニ研究練習スベシ

第二条 少尉候補生は日常萬般ノ事ニ関シテハ監督ノ

命ヲ受ケ船務職務學術等ニ関シテハ監督ノ統裁下

ニ指導者ノ教授ヲ受クルモノトス

第三条 少尉候補生は左右兩舷道ニ分テ各舷更ニ二部

ニ分テ右舷直一部二部左舷直一部二部トシ練習少

尉候補生配置表ニ依リ配置シ且交代セシム

第四条 各部ノ先任者ヲ部長トシ部長ノ先任者ヲ先任

部長トス

先任部長ハ候補生全員ヲ代表シ會ヲ受ケテ全般

ニ関スルヲ傳達處理ス

部長^{先任}部長ヲ補任シ其部員ヲ代表シ其部ニ関スル

テハ先任部長ト同等ノ職務ヲ執行ス

芽五條 左右兩舷ニ分レタル一舷並ニ候補生ニ當直員

トナリ當直勤務並ニ職務ノ要員習ヲナシ他舷直ノ

モ、ハ非^操當直トナリ諸學術ヲ習得ス

諸^操練點檢者ノ際シテハ職務見習トシテ徒屬セル

長ト全配置ニ就ク

但當直舷ノ碇直ニ就キ非^操當直員ニ便宜ノ位置ニ

集令シテ見習子ス

第六條 少尉候補生ノ當直員ハ凡テ四直トス其甲板

當直職務及位置ハ左表ノ如シ

甲板砲注直一砲術長附一三番分隊長附輪番二行ノ

職 務 位 置

當直將校附 後 艇 橋

副直將校附 最上甲板 (二人ノ中、除ク)

副直將校附 後部上甲板

甲板航海直 (砲術長附一三番分隊長附輪番二行ノ)

當直將校附 前 艇 橋 四 維 盤 台

副直將校附 前 艇 橋

副直將校附 後部上甲板 (二人ノ中、除ク)

甲板當直一直ニ三名又ニ三名是トシ一直ノ回交互ニ交

代スルナリ次ノ直ニ於テ其位置ヲ交代ス

機関部當直一航海中ニアリテ一直ニ一名又ニ三名是トシ

一ノ直ノ中間ニ於テ汽機室ト汽罐室ト交代ス健治中

ニテリテ、饒負起床時ヨリ夜巡検ニ至ル迄一名是交
番ニ當直機関官ノ職務ヲ安具習ス機関部ニ直
者、操練中ト昂ニ機関部職務ニ入モイトス
身七条 少尉候補生ノ甲板碇泊直ヨリ航海直ニ移
ルニ學ニ其位置ヲ変ス

機関部碇泊直ヨリ航海直ニ移ルニ點火時ヨリ其
航海直ヨリ碇泊直ニ移ルニ一時后ニ於テス

身八条 少尉候補生ノ教令ニ示ス如ク正確ニ將校勤
務録ヲ記シ毎^週土曜日ニ各自ノ從屬スル長若クハ
艦長ノ指名スル將校ニ出シ檢印ヲ受ク可キ其長
ハ尚一ヶ月一回之ヲ艦長ノ園覽ニ供シ其檢印ヲ受
クル者トス

身九条 各科目ヲ實習スルニ決シテ冷熱アムバカラス

殊：將校トシテ知ラザル可カラザル機關ニ関スル事ノ如キ
ハ將來ニ於テ再ヒ得難キ研究ナルヲ銘記シ事々
物々之ヲ審實地ニ既味ス可シ

第十條 少尉候補生ヲ端艇員ニ配シ候補生ノミヲ以テ
総端舟帆走或ハ橈走ヲナサレム其配置ハ別ニ之
ヲ定ム

第十條 少尉候補生ヲ呼集スルニハ右ノ音ヲ以テス右
舷直候補生ノミニ對シテハ右ノ音ノミ則後ニG一ヲ左
舷直ノ者ニ對シテハGニヲ附ス而シテ其整列是位
置ハブローポ若クハ後甲板左舷側トス

第十條 少尉候補生ニ每朝是時ニ是位直ニ整列其
副監督ノ点檢ヲ受ケ其日ノ作業ヲ聞キ終リ
テ當直艦ヲ交代シ配置ニ就クモトス

但點檢ヲ終ラハ列監督ハ之ヲ監督ニ報告シ然ル
後解散セシムモノトス

軍事点檢ノ時ハ亦番直員ノ是所ニ整列シ
當直員ハ固有ノ配置ニ就クモノトス

第十三条 整列呼集若クハ用務ヲ余セシム場合
ノ如キハ當中ニ配装ヲ用ユベシ

第十四条 少尉候補生ハ士官釣床ト合時ニ自ラ其鋪
床ヲ上下ス可シ

第十五条 少尉候補生ハ軍事点檢後酒保ヨリ物品
ヲ購入スルヲ得

但各年ニ於テ通帳ヲ創表シ之ニ記名シ給仕ヲレテ
物品ヲ受取ラシム

第十六条 少尉候補生ハ兵學學校ニ於テ用ヒタル寝衣

ノ外他ノ寝衣及草履等一切使用スヘカラス

第十七条 少尉候補生、各自ノ物品勿論共有ノ物品ト

虫厄充分ニ整頓ス可シ

第十八条 少尉候補生當直弦ヲ毎日四名宛ノ室直ヲ

出シ室内整頓及清掃ノ事ニ任セシム可シ

土曜日ニ當直勤務外ノ當直弦總負ニテ大掃除

ヲ行ヒ木曜ニ木曜掃除ヲ行フ可シ

第十九条 遠洋航海中ニ操練事業中ノ外ハ奴方メテ

室外ノ遊戯、運動ヲ行フヘシ

但碁、將碁、風琴、骨牌等室内遊戯ニ嚴

禁ス

第三十条 少尉候補生診察ヲ受ケントスルモノハ別當督係

管ニ係ル診察簿ニ記名シ午前止業後ヨリ

午後一時三十人の途ノ間ニ於テ受診スヘシ但急病患
者ニ其限リニアラス軍医官診察終リテ診察手簿
ヲ刻長ニ差出し検印ヲ受ケ之ヲ刻監督ニ返付スル
モノトス

廿二条 少尉候補生ハ毎月第二土曜日午後ニ於テ休

量ヲ秤ルモノトス

廿二条 少尉候補生上陸及舩ノ中ハブロー若クハ
監督所ノ檢受シルモノトス
但上陸ニ成ルベク舩ヲ使用セシムモノトス

0633

監督協議シタル件

一 艦内ニテハ特令ナケレバ飲酒ヲ許サズル^ル又艦外ニ

於テ深ク干渉セスト曷^モ飲酒^ハ不^レ体裁ヲ來スガ

如キ者アラバ充分嚴格ニ制裁ヲ加フル^ト

二 事業時間中ハ菓子等ノ間食ヲ許サズル^ト

三 小説類ノ携^レ帶ヲ許サズル^ト

四 少尉候補生ヲレテ咸ルベク次室士官ニ昵近セシムル

五 下士以下ニ聽聞セル事項ハ萬一ノ誤解ヲ避クル為メ

成ルベシ再^ニ指導官ニ質問セムル様注意スル^ト

消燈	十一時	十一時	十一時	十一時	
巡	見九時	八時三十分	八時三十分	八時三十分	室直ノ内ニ名リ巡見ラ受
巡検用意	八時四十分	八時四十分	七時四十分	八時四十分	
室内掃除	八時三十分	八時	七時三十分	八時	
釣床下	目没后五分	上金	上金	上金	

備考

日曜ノ日課リ軍務日課表ニ準テス
 前表ノ外ノ日課モ同断
 卒業ノ都合ニ或リ日長短等ヨリテ適宜料
 酌ス
 食事交代スヘキリ食事用意三十分ノ
 食事ス

0637

供覽

軍務

教育本部

軍令

第一課
第二課

練枝普第一〇五號

一 嚴島松島橋立三艦長以下士官、訓示
右報告仕候也

明治三十五年十二月十三日

常備艦隊司令官上村彦之丞

海軍大臣男爵山本権兵衛 啟



第一局

第二局

第三局

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

教育本部

明治三十五年十二月十三日

海軍

嚴嵩書島松立三艦長以下士為訓示

先キ予が本職に任セルに當リ海陸様密第三モ号ノ如依リ山本海軍大
臣閣下が本練習艦隊ニ待タル所ノ訓示ヲ服膺シ聊カ予が存望ノ主點ヲ當
時在隊セル艦長及要位ノ諸君ニ開示シタリ尔来未ダ日ナラザルニ諸君ノ
忠實勤勉ナル著々萬般ノ準備ニ訓練ニ顯著ナル功績ヲ挙げラルヲ見
テ深ク感謝ノ意ヲ表スルト同時ニ前途ノ良果期シ得ヘキヲ確信シ帝
國海軍ノタメニ慶賀スニ堪ハサルナリ今ヤ先キノ公員タリシ兼組士官モ全
ク充實シ諸君共ニ將才ヲ兼達シ樂ンデ待テウアルナリ少尉ヲ補生モ日
チラスレテ兼能シ念及ニ本隊ヲ舉ゲウテ本務實質行ノ域ニ入ラレトス是レ更ニ
諸君ヲ愛シ會同セル所以ニシテ親シクモ希望ヲ告ゲ以テ本團ノ任務ヲ
全クスルニ信心負出スルヲ存マセトス

抑モ本團ノ如ク有カハルニ程ニ以テ準備艦隊ノ一隊ヲ編成シ百九十二番ニシテ
少尉ヲ補生ノ實質功績ヲ待テ更ニ親シクモ希望ヲ告ゲ以テ本團ノ任務ヲ

スルモ未ダ前例アルノ間カ其是レアリシ所以者ハ帝國海軍ノ實力カニ伴
フ自然ノ結果ナリト雖モ亦軍隊ノ頭腦養成ノ全力ヲ注カルノ御注意
ニ出テタルニ甚ダ因セザンバアラズ百九十未奉ノ時校ガ國家ノ良手城タル
ヲ得ルト得ザントノ礎ヲトスイ主トシテ諸君ガ今回ノ指導ヲ如何ニ存ズ加
之海外各所ニ放ラズ事大小ナク帝國海軍ニ代表スルノ思心ハ必ず諸
君ト肩ヲ所ノ任務誠ニ重且大ナリ左ニ希冀キテ要點ヲ示ス

一 軍紀風紀ノ軍隊ニ必要ナルハ恰モ血液ノ久体ニ必要ナルカ如ク之ノ衰
乏ハ直ニ軍隊ノ体ニ大關係ヲ及ボスモノナリマカ諸君ニ諸君ノ望ム所ハ
之ガ隆張ト厳肅トシテ他隊ノ模範タラシメレテ期スルニアリ

二 戦闘ノ主要要素ハ大砲水雷ニテハヨ記シアラズ手段ヲ尽テ之ガ射撃手
ニ熟達セシメテラシム

三 兼負一般ヲシテ世界ニ対峙スル帝國海軍ナリトノ念シ帝ノ抱持
セシムルガ如ク誘導ヲアルヲ要ス

四三艦長互相懇話熟議し事ヲシテ一軌ニ出テ協同和衷今日ノ如キハ誠ニ
得難キ美風ニシテ予ガ殊ニ歎ク所ナリ頭首美風ヲ求メズシテ部下ニ
移リ其影瀆スル所誠ニ大ナル信ズ予ハ此ノ學女風ヲ養ヒ其意ヲ達セシム
ルヲ切望ス

五各艦ノ監督及指導官亦第四項ノ如ク協同一致時々會合熟議シテ教育
程度及監督指導ノ方法等區々ナリサラン一ヲ要スアハる存存備ラレテ
其議ニ參典セシム

六少尉補生乗艦ノ初期ノ事ハ當ラントスルノ念且取モ旺盛ナル時ニシテ方
般ノ事深ク船底ニ浸潤シ將來ノ基礎トナル者ナレバ諸君ハ殊ニ此點ニ
留意シテ向テ所ヲ明示シ且ツ終務ヲ嚴正ニ實行スルハ勿論言語
動作等最モ慎重ニシテ尚モ輕佻嘲弄的ナラザルヲ要ス

七教育ノ成ルベク學ヲ遊ケ實地的ナルヲ要ス

八教育ノ程度ニ深キヲ切望スルハ當ラズ日決キヨリ初メテ確實ニ知得セシ

ルノ方ヲ採ルニ賛同ス要ハ事ヲ曖昧シ過ゴサシメズシテ自信カシ養
成スルアリ彼ノ知リタル凡レテ慢ニテ令レ終ルカ如キ取テ忌ムヘキノ甚キ
者ナリトス

尤自習自究ノ気風ヲ充分ニ奨励シ船内ノ事業ニ注意セシム
様指導スルニ自習自究啟蒙的教育ヲ以テ希望スル所ナルモ唯稱
モスレム放任ニ流レ易キヲ戒ムニ宜シク注意スヘシ如何ナル方面ニ
テ自修自究スベキハ社員補佐ノ頭脳未ダ自ラ判断スル力乏シ
宜シク其習究スルニ方針ヲ指示シ時々其進捗ヲ検シテ刺激
ヲ與フルガ如クスルヲ肝要ナリトス

十艦内規ニ通曉セシムルハ最先ノ必要ナリ或ハ自ラ艦内ヲ査査調査
セシメテ平首補等ヲ勤勤録申ニ画カシムル等速ニ通曉セシム
ノ途ヲ講ムルヲ要ス又終期ニ望ンテハ艦内諸部回者自ラ自ラ端
割リ得ル如ク充分解得セシムルヲ要ス

士船長の部下士官、今ヨリ碇泊地定地タル外國港ノ調査方ヲ令當事セ
トメ一地ニ向テ毎ニ講話セシメ尚、寄港セルト當リ夫レ以外ノ材料蒐集
爲テ担当セシモノヲ要ス各分當者ハ自己ノ調査ノ報告ヲ提出スルモ
ノトス

十二事々物口可成實質行ニ先テ或ハ實質行ニ當リテ問題ヲ起シ少尉候補生ノ
頭腦ヲ實地的ニ練ルル最モ有益ナリ一例ヲ示セバ鹿兒島ヨリ玖
波ニ至ラントスルニ先テ之ニ對シテ各自如何ナル航路ヲ取ルハキヤマツ同ヒ航
跡ヲ圈圖ニシテ提出セシメ航海長ノ批評ヲ受ケルルガ如キ或ハ右炭
搭載後ナスベキ事業割掃除順序号令等ヲ結了ノ前ニ筆答
セシムルガ如キ次第ニ少尉候補生ヲシテ次に起ルベキ事業等ノ關係
ニ附ヤシメザル標注意思ヲ喚起スルヲ要ス大砲水雷發射ノ際ニ如キ
隊ノ次第書ヲ説示シテ其方法ヲ諳ニセシムルガ如キセレトヲ要ス
十三勤務記録記載方ニ関スル心得ヲ説明シ看眼スベキ事ヲ知ラレ

ノ要旨ヲ要ス

十四 便宜ノ時機ニ付尉補生ヲ解長官或ハ監督指導官ラシテ
外國港ノ良クオテルニ律行會令良セシメ食料ノ作法ヲ教示スル
コトヲ取ルガ如キハ甚ク望マシキ所ナリ特ニ戸外運動ノ便宜ヲ
與ヘ充分ニ奨励スルヲ要ス

十五 下級者ノ上級者ニ對スルノ敬意甚ま臆トサル者ナレハ上級者ニ報
答スルハ如キハ充分慎重ニ敬肅ノ態度ヲ以テヤムルヲ要ス

明治三十五年十二月六日 上本備備経隔司令官

0644

特別訓示

一 軍艦 旗上下ノ際ハ在船セル首席將校必ズ

船橋ニ在リ且取テ神聖ニ施行スルヲ要ス

明治三十五年十二月六日

上村常備艦隊司令官

0645

供覽

云云

海軍大臣宛

十月五日 吳 軍艦隊司令官

吳百噸起重機 脇豫備艦部倉庫

三棟ヲ借受テ練習少尉候補生隔

離所ニ充テ昨日ヨリ收容シ本日ハ全ク

整備シ嚴重ナル注意ヲ以テ隔離執

第一課長(中)ナリ本日熱性患者名生セル故

第二課長(直)ニ入院セシメタリ 委細書面

軍務所

第二課
第一課



海軍

0646

拾三六

ナシナナ

電 報 送 達 紙

局	着	局	發	名氏所居人信受
取受所信	第一	付	第	友友
時分	五	時分	七	
字		日	號	
定 指				カイン...
事 記				
ツト子コソク ヨス 三 ワレ リシニシムキヒ ヲエニテハ子ハヤ マツヨウヨクヨク タクモ 新				他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ 符號シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻ス 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカ

0647

